

11月11日~12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話(03)3434-0261(代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ http://www.baj.or.jp/
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成16年2月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

第94回理事会と新年賀詞交歓会を開催



社団法人電池工業会は、1月9日東京プリンスホテルにおいて、第94回理事会並びに新年賀詞交歓会が開催された。

理事会では、審議事項の審議と承認、各部会報告が行われた。また、新年賀詞交歓会では、平成15年度優良従業員表彰式も併せて行われた。

.....
理事会は、田中千秋会長が議長となり、次の議題が審議された。

第1号議案 会員代表者変更の件

木村侃丘専務理事から富士フィルムバッテリー株式会社小松治夫氏から加藤正幸氏への交替届が提出され、原案通り承認された。

第2号議案 理事交替の件

前記会員代表者の変更に伴い、小松治夫氏の後任理事として加藤正幸氏の選任が提案され、承認された。

第3号議案 監事交替の件

木村侃丘専務理事から公認会計士 中村俊輔氏の後任監事として税理士 鎌田進氏の選任が提案され、承認された。

第4号議案 平成15年度優良従業員表彰の件

会員会社において、顕著な功績の合った社員を優良従業員として表彰することが承認された。(後述)

第5号議案 賛助会員入会の件

木村侃丘専務理事から、ゼファー株式会社(代表者 伊

藤瞭介氏)、日本電工株式会社(代表者 高橋啓悟氏)より、入会の申し込みがあった旨の報告があり、入会が了解された。

報告事項

1. 木村侃丘専務理事より、賛助会員代表者の交代が報告された。

- 1) ボッシュ株式会社 クラウス・ベッカー氏からフランク・シュレフナー氏
- 2) タイコエレクトロニクスレイケム株式会社 栖関智晴氏から中尾俊介氏
- 3) 株式会社KRI 竹内正明氏から中芝明雄氏
- 4) ソニーサプライチェーンソリューション株式会社 秋田治雄氏から田所晋氏
- 5) 株式会社デンソー 松井武氏から鎌居健一郎氏
- 6) 石崎プレス工業株式会社 石崎守男氏から石崎隆造氏
- 7) 旭化成エレクトロニクス株式会社 藤原健嗣氏から鴻巣誠氏

2. 平成15年度(暦年)生産・出荷

平成15年1月~12月の電池及び電気器具の出荷動向は、電池全体で数量6,463百万個(対前年比 97%)、金額6,934億円(対前年比 99.9%)、器具は金額149億円(対前年比 88.1%)、合計で金額7,082億円(対前年比 99.7%)の予測である。

3. 各部会活動については、各部会長および小形二次電池再資源化推進センター副所長より報告があった。

平成15年度優良従業員表彰

理事会終了後、平成15年度優良従業員の表彰式が行われ、各受賞者に賞状と記念品が授与された。さらに、本年より、各社の理事と受賞者の記念撮影を行った。表彰された方々は、次の12社17名であった。

受賞者(順不同、敬称略) 荻野英紀(青木電器工業)、庄子久夫(SIIマイクロパーツ)、川合隆雄(FDKエナジー)、松崎泰也、水口清隆(三洋電機)、仲野敏昭(新神戸電機)、橋本正彦、増子栄光(ソニー)、住谷三郎(東芝電池)、中崎正信、辻元宗弘(日本電池)、高井富士雄(日立マクセル)、吉原正二(古河電池)、宮本通、益義人(松下電池工業)、荒井史郎、板井清治(ユアサコーポレーション)



[優良従業員表彰式]

新年賀詞交歓会

優良従業員表彰式に続き、「新年賀詞交歓会」が行われた。経済産業省商務情報政策局情報通信機器課 福田秀敬課長を始め、関連企業、団体など関係者多数の来会を得て、和やかな雰囲気であった。



[経済産業省商務情報政策局
福田秀敬課長ご挨拶]



[電池工業会 田中千秋会長挨拶]

蓄電池設備整備資格者

講習修了考查合格者(福岡会場分)

電池工業会は、1月15・16日福岡県で開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考查に合格した者の氏名を発表した。合格者(合格率)は、50名(79.4%)合格通知は直接本人に通知される。

福岡県

甲斐賢一、西尾俊治、川俣哲史、富永隆一、田中幸夫、高尾裕二、野木信宏、婦木伸夫、吉田辰幸、西本昇、宮原隆、小林光則、古賀敏幸、金脇義彦、浦川強志、齊藤和彦、船田謙治、田村輝男、平尾章二、入海哲夫、江口勉、松原瑞成、太田岳志、林敬、稲田一弘、幸田浩、安田俊之、宇都本輝美、金原和文、小田信児、井上賢二、藤田浩章、福島弘輝、林秀章、松本浩一、長岸大樹、池内稚、照屋猛、山道善憲、波多江清、原田英太郎、郡司龍也、八田幹雄、高田敏雄、石原勝矢、小西雄介、片山昌政、小川高史、須田彰則、石塚正裕。

平成15年度第4回一次電池部会開催



平成16年1月9日、機械振興会館において梶井部会長(日立マクセル<株>)を議長に、平成15年度第4回一次電池部会(出席者23名)が開催された。

冒頭に梶井部会長から新年の挨拶があり、続いてメインテーマである「EU電池指令改定案」に関し審議が行われた。

.....

1. 梶井部会長挨拶

今年度最後の一次電池部会であるが、環境問題が非常に重要な課題である。この問題については後で審議するがお互いに意見を出し合いたい。

正月の日経新聞に載っていたが日本のシンクタンクにはナノテクノロジー、バイオテクノロジー、ITテクノロジーがあり、そこには常に電池が関係してくることになる。一次電池の今後は夢のあるデバイスであり、本年も頑張っていきたい。

2. 事務局交替挨拶

現事務局 近藤部長が2月末に退職し、新任の高岸部長に交替する。

3. 報告及び審議事項

1) 「最近の欧州と中国の状況」並びに「EU電池指令改定案」について藤本部長より説明があった。特にEU電池指令に関する質疑応答の中で多数の疑問点が出た。これらを纏めてEUに質問を投げ掛けていくことにした。

2月10日に臨時一次電池部会を開催し本件だけを絞って継続審議することにした。

2) 委員会報告

a. 技術委員会

補聴器用空気電池の啓蒙活動を目的にガイドブック、カタログ、取扱い説明書への表示方法をPL、広報委員会と共同で空気電池WGを設置して実施する。また、ニッケル系一次電池の規格化をIECで進めることが承認された。

b. PL委員会

レンズ付きフィルム用アルカリ乾電池のリユース問題は外装ラベルで解決する見込みであることと各社におけるリチウム電池廃棄方法の報告があった。

リチウム電池については、完成品、戻入品の梱包方法が適切でない場合、処理業者での運送時や処理時にショートして事故の原因となる可能性があるため、チラシなどで「禁止事項」を徹底する方法を検討することになった。

c. 業務委員会

ボタン電池回収箱へのコイン形リチウム電池の混入については、コイン形リチウム電池が入らない工夫よりも、入れられても問題のないよう、電池にテープ張りを確実に実施する方向で再度検討することになった。

d. 環境対応/循環技術委員会

環境総括資料が電池工業会の内部資料としてまとめられ、各委員に配布された。

3) 平成16年度主要取り組み課題と予算について

平成16年度各委員会の主要取り組み課題項目と予算案作成の基本的な考え方が説明された。

業界動向

《電池・燃料電池・太陽電池》

*電池工業会 [2003プロ野球最優秀バッテリー賞]の表彰式を、12月3日に東京プリンスホテルで行った。本年、セリーグは阪神タイガースの井川投手と矢野捕手が、パリーグは福岡ダイエーホークスの斉藤投手と城島捕手が各々選出された。(12月4日付 スポーツニッポン等)

*日産自動車 FC車の心臓部であるFCスタックを自社開発する方針を固めた。(12月9日付 日刊工業)

*NECTーキン リチウムイオン電池の価格競争力強化のため、同電池の生産拠点である中国での部材調達に乗り出す。(12月9日付 日経産業)

*YUASA 世界で初めて、正極に層状マンガン系複合酸化物を採用したHV車用リチウムイオン電池を開発した。(12月10日付 電波、化学工業日報、日経産業&日刊工業)

*日本電池 使用寿命を既存品の1.4倍に延ばしたバス向けバッテリーを開発、今月から発売を開始した。(12月10日付 電波&化学工業日報)

*YUASA 関連会社のユアサデジタルテクノロジー社(台湾)が、今秋から超急速充電式ニッケル水素電池のOEM供給を開始した旨を発表した。(12月11日付 電波&化学工業日報)

*松下電池工業&新神戸電機 両社は16日鉛電池事業を提携すると発表した。(12月17日付 日経、日経産業、化学工業日報&電波)

*日立製作所 百円ライター大手の東海と組み、小型FCの燃料カートリッジ(燃料=メタノール)を商品化する。(12月11日付 日経&日経産業)

*東京工業大学 シリコンを電極に使った超薄型のFCの発電に成功した。化学・電機メーカー等に呼びかけ5年後程度の実用化を目指す。(12月17日付 日経産業)

*京セラ 出力1kW級の固体酸化物型FCで54%(DC発電端低位効率)の世界最高レベルの発電効率を達成した。(12月19日付 日経、電波&日経産業)

*富士写真フイルム 全額出資の販売子会社の富士フイルムアクシアと富士フイルムバッテリーを対等併合させる旨を発表。(12月24日付 日刊工業&日経産業)

《商品・技術・材料》

*日本経済新聞 「第二回ナノテクノロジー企業調査」から、2005年にナノテク市場が約2兆円に拡大、ナノテク・ピックアップが近づいている旨を発表。(12月1日付 日経産業)

*日経産業新聞 日経が実施した「第二回ナノテクノロジー企業調査」の注目度ランキングで、NECが首位、東レが3位に、又昨年はランク外であった昭和電工とフロンティアカーボンが10位以内に入った旨を発表。(12月1日付 日経産業)

*ポッシュ(横浜) 電源にリチウムイオン電池を搭載したバッテリー式のドライバーを発売した。(12月3日付 日刊工業)

*ダイムラー・クライスラー日本 東京ガスにFC車を納入した。一回の水素充填で150kmの走行ができる。(12月5日付 日経産業)

*ソニーコンピュータサイエンス研究所 パソコンに収めた情報を、新型の携帯電話を利用することにより外出先で簡単に読み取れる新手法を開発した。デジタル家電の普及に合わせ未来型携帯電話端末として2010年までに商品化を目指す。(12月5日付 日経)

*フェデックス(米) 集配作業の効率化を狙いに、短距離無線通信規格(ブルートゥース)を利用した新情報システムを導入する。(12月5日付 日経産業)

*日産自動車 FC車のリース販売を開始した。本FC車には新開発のFCスタックと薄型リチウムイオン電池が採用されていて航続距離が350kmに伸びている。(12月8日付 日経産業)

*松下電器産業 充電式浴槽みがき機の新製品として、スティックとハンディーの2WAY方式を実現したものを2004年1月20日から発売する。(12月2日付 電波)

*三菱自動車工業 スポーツカー向けに、リチウムイオン電池を搭載したハイブリッドシステムを開発した。(12月18日付 日経産業&日刊工業)

*東洋紡 FC用の電解質膜を開発した。発電効率が3割向上するほか高濃度のメタノールの使用が可能になり、FCの小型化、超寿命化が可能。(12月19日付 日刊工業)

《環境》

*日立製作所 EU/環境規制(RoHS)に対応、電気、電子機器を対象に鉛、水銀などの使用を、2005年3月末までに全廃する旨を発表。(12月2日付 日刊工業)

*自動車各社 2005年1月の自動車リサイクル法の施行を前に、車の再資源化については2陣営を結成し適正に処理する枠組みが作られる予定。(12月7日付 日刊工業)

*リチウムイオン電池材料 電池の生産の伸びに素材供給が追いつかず、当該電池用素材の国際需要がひっ迫している。(12月9日付 日経)

*経済産業省、厚生労働省&環境省 化学物質の安全性評価の効率化を図るため、来年度各省が保有する化審法の審査情報等を一元管理する化学物質情報基盤システムを整備する。(12月12日付 化学工業日報)

*分析センター(東京) 日本で始めてカドミウムのEU公定分析法の認定を取得、アジアで業務拡大へ。(12月19日付 化学工業日報)

*家電リサイクル法(中国) 来年をめぐり「家電リサイクル法」を策定する。尚、費用はメーカーに負担を求める方向。(12月21日付 日経)

《予測・統計》

*新華社(中国) 今年の中国での携帯電話生産は1億5千万~1億8千万台の見込み、但し生産の伸び程には販売は伸びていない。(12月8日付 電波)

*中国情報産業省 中国の電話利用の主役が、固定から携帯電話に主役が交代した。10月末時点の携帯電話の加入者数は2億5693万台、一方固定電話は2億5513万台。(12月8日付 日経産業)

*新華社(中国) 中国での携帯電話の普及率が百人当たり19.5台(20%)、都市部は40台以上になった。(12月9日付 電波)

*IDC(米) 欧州での今年7-9月期の携帯電話市場の出荷台数は2538万台で、前年同期比で横ばい、

カメラ付携帯の占める割合が前年同期比11%から14%に増加した。(12月10日付 電波)

*IDC(米) 2003年の世界のパソコン出荷が最高を更新することが確実で、11%増の1億5200万台になりそうである。(12月13日付 日経)

*日本自動車工業会 2004年の自動車の国内需要見通しを発表した。四輪車は前年見込み比0.9%増の590万台、二輪車は0.3%増の80万台の新車販売を見込んでいる。(12月19日付 日経)

《その他》

*総務省 携帯電話等モバイル機器の普及で、電波不足が深刻化していることに対応、電波不足を解消するため、電波法改正に乗り出す意向。(12月3日付 電波)

*公正取引委員会 小売の消費税総額表示で独占禁止法などに違反する可能性がある事例を公表した。(12月4日付 日経)

*東京高裁 民事部にある知的財産訴訟を担当する部署を分離独立させ、専門組織(知的財産センター/仮称)を来年4月に設立方針を固めた。(12月5日付 日経)

*中国 IT特許紛争の回避を狙い、情報技術(IT)分野で独自の規格(中国規格)の導入を急いでいる。(12月8日付 日経)

*経済産業省 国際標準化活動で、アジア諸国との連携を強化、国際標準化機構(ISO)におけるアジアの影響力を拡大へ。(12月9日付 日刊工業)

*特許庁 特許審査の迅速化実現を目指した「特許審査迅速化法/仮称」案を纏めた。待ち時間24ヶ月、50万件という審査未着手案件の一扫を目指し、抜本的な対策を講じている。(12月10日付 日刊工業)

*厚生労働省 栄養機能食品の栄養成分について、あらたに追加検討を行うことになった。対象は亜鉛など3成分。(12月15日付 化学工業日報)

*経済産業省 生活の豊かさの実現を目指し、高齢者、障害者に配慮した製品の規格づくりを促進させる。(12月16日付 日刊工業)

*環境省 環境報告書の審査制度構築に向けた取り組みを加速させる。(12月25日付 化学工業日報)

平成16年1月度の電池工業会活動概要

部会	1月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	8日(木)	広報委員会	本年度の各種イベントの確認、反省と来年度企画と予算の検討
	19日(月)	ISO環境ラベル委員会	ISO14021の日本提案について、適用範囲、責務と義務、解釈等検討
	26日(月)	JIS原案作成本委員会	JIS C 87XX「密閉形小形二次電池の安全性」制定原案の審議
	26日(月)	JIS原案作成本委員会	JIS C 8711「ポータブル機器用リチウム二次電池」改正原案の審議
	26日(月)	広報委員会	本年度の実績の確認と来期の予算および内容の検討
二次電池部会	7日(水)	自動車鉛分科会	JIS D 5301(始動用鉛蓄電池)改正案
	8日(木)	広報二次電池WG	キャンペーンクイズ抽選会
	8日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	14日(水)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	15日(木)	(自)需要予測小委員会	10、11、12月度実績確認
	16日(金)	自動車用電池技術サービス小委員会	自動車用電池総合診断パンフレットの内容及び構成
	16日(金)	二次電池PL委員会	自動車用電池事故の報告方法、UPS用電池の交換目安の表示等討議
	16日(金)	二次電池PL委員会&技術サービスWG合同会議	日常点検パンフレット等の啓蒙資料の中身の見直し
	21日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	21日(水)	据置鉛分科会	H16年度改正JIS(C 8704-2制御弁式)の内容及び構成
	22日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	22日(木)	産業用電池統計分科会	10、11、12月度実績と市場動向の確認
	26日(月)	充電器分科会	浮動充電用整流装置の取扱い説明書の改訂、他
	26日(月)	HEV用電池分科会	日本自動車研究所規格(HEV用Ni-H電池の寿命試験方法)の最終確認
	27日(火)	産業電池技術サービス分科会	蓄電池設備の部品交換に関する調査、他リーフレット2件
	28日(水)	電気車用電池統計分科会	10、11、12月度実績と市場動向の確認
	28日(水)	(自)市販小委員会	販売店での回収状況について
29日(木)	(財)自動車製造物責任相談センター勉強会	初めての見学会を行った。自動車およびその部品のクレーム相談が仕事	
29日(木)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキームの審議	
小形二次電池部会	13日(火)	リチウム2次分科会	JIS原案(C 8711改正、小形二次電池の安全性制定)作成審議
	15日(木)	第32回国連対応委員会	Li量8g以上を目的とした国連勧告の改訂用2007年プログラムの検討
	16日(金)	第128回海外環境委員会	世界の電池規制冊子(2004年3月)改訂版発行に向け細目を検討
	16日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS原案(C 8705改正、小形二次電池の機械的試験制定)作成審議
	16日(金)	再資源化委員会アルカリ分科会	PRTRの活用検討及び廃棄フローの検討。今年度活動まとめ
	21日(水)	再資源化委員会	新EU電池指令案についての課題検討及び今後の取組について検討
	23日(金)	工場環境委員会	新たな環境基準についての課題検討開始。次年度活動計画の検討
	27日(火)	業務委員会	12月度販売状況の検討及び統計資料に関する課題の整理等の審議
	29日(木)	海外環境拡大WG会議	特に欧州編について、EU指令草案の扱い等最終構成を検討
一次電池部会	9日(金)	部会	EU電池指令改定案に関する審議/2/9臨時部会開催し継続審議
	19日(月)	最先端電池技術-2004(電気化学会主催)	一次・二次電池の諸動向について発表
	20日(火)	JIS小委員会	JIS C 8500「一次電池通則」改正審議
	20日(火)	IEC小委員会	IEC60086-1規格のメンテナンス JPコメント案審議

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

使用性能、利便性を大幅に改善

コードレス作業灯「パワーライト プロⅡ」を新発売

日本電池株式会社(社長 村上晨一郎)はこのたび、従来のコードレス作業灯「パワーライトプロ(型名:BL-F3000シリーズ)」の使用性能と利便性を大幅に改善した新商品「パワーライトプロⅡ(BL-F3100Lシリーズ)」を2月1日より発売いたします。

現在、自動車整備業界においてお客様に信頼されるサービスの提供およびサービス現場自体の生産性向上が望まれています。従来、作業灯は天井などから吊り下げられたコードリールの電源を用いたものしかなく、作業中にそのコードでお客様の車両を傷つける危険性や、コードがあることでの点検時の取り回しの悪さがあり、大変不便でした。

弊社は2001年7月に業界に先駆けてコードレス作業灯「パワーライト プロ」を発売し、その明るさと使い勝手の良さから大変好評を得ました。

また、その機能により警察の事故現場検証における照明や警備用の照明としても採用されるなど、自動車整備用の作業灯の用途に留まらず幅広い分野で採用されています。

今回発売する「パワーライト プロⅡ」は、最大3100ルクスという作業灯のなかでは格段に明るい照度を発揮することで作業性を向上させ、また省エネモードを採用することで弊社従来品の約1.6倍の長時間使用を可能にしました。(電源はニカド電池)

また、弊社姉妹品で2002年3月に発売したプロ向け12V電源ツール「パワーツールプロ」とバッテリーパック・専用充電器の兼用が可能で、現場でのご利用方法に幅が広がられます。

— 特長 —

- 1.独自の多面反射板を使用することで最大3100ルクスの明るさと明るい作業環境を実現
- 2.省エネモードを搭載することで連続点灯約130分を実現(弊社従来比:約1.6倍)
- 3.吊り下げフックにロータリーフックを採用することで、360度照射面を回転／固定が可能になり、照らしたいときに照らしたい場所を照らすことが可能
- 4.防雨設計だから野外サービス作業、小雨時の使用も可能
- 5.コードレスだから、車両点検時にコードによる車両の傷つけの心配がない
- 6.過放電に強い弊社製バッテリーパックを採用
- 7.着脱式バッテリーパックの採用で電池交換が簡単



●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

ハイブリッド自動車用リチウムイオン電池の新製品開発のご案内 (世界初、層状マンガン系複合酸化物リチウムイオン電池を実用化)

製品名:E-on

YUASA(社長 大坪愛雄)は、この度、特に高温下での寿命に優れた、高性能で高安全性のハイブリッド自動車用リチウムイオン電池を開発いたしましたので、ご案内申し上げます。

この電池は、世界で初めてリチウムイオン電池の正極に層状マンガン系複合酸化物(マンガンと他の金属元素を均一に複合化したもの)を実用化したものであります。携帯電話やパソコン用の小形リチウムイオン電池に使用されている正極材料のコバルト酸化物の特長である高いエネルギー密度、高出力性と、ハイブリッド自動車用などのリチウムイオン電池に使用されている正極材料のマンガン酸化物の特長である高安全性を両立させたことにより、高温下での長寿命化、高性能化を実現することができました。特に、高温下での寿命が2倍になったことにより、今後、高率充放電の繰り返しで高温になりやすいハイブリッド自動車用や、狭いスペースに据え付けられ高温環境となるバックアップ電源用などに幅広い需要を見込んでおります。既に、各種用途のユーザーに提案を開始しており、来春に発売する予定であります。

— 特長 —

- 1.当社従来品のマンガン酸化物を使用している大容量リチウムイオン電池と同等の高い安全性を有しています。
- 2.同上の製品に比べ、充電受け入れ特性が約2倍(1000W/kg)になり、高率充電特性が向上しました。
- 3.同上の製品に比べ、高温寿命が2倍以上(3000サイクル)に改良されており、経済性に優れております。

— 主な用途 —

- 1.短時間にエネルギーの高率充放電特性が必要とされ、また、高温下での長寿命が必要とされるハイブリッド自動車用電源
- 2.狭いスペースに据え付けられ、高温状態での長寿命が要求されるバックアップ用電源
- 3.その他、頻繁に充放電が繰り返される産業用電源



11月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年11月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	577,994	62,376	91%	94%	5,625,521	638,097	97%	101%
全電池合計	577,008	61,268	91%	94%	5,615,804	624,459	97%	101%
一次電池計	439,859	15,486	90%	86%	4,138,709	137,781	97%	91%
マンガン乾電池計	91,307	1,872	74%	71%	854,343	16,050	82%	77%
単一	13,087	633	72%	66%	99,287	4,725	85%	78%
単三	42,636	627	69%	69%	418,458	5,926	79%	75%
その他	35,584	612	82%	77%	336,598	5,399	86%	79%
アルカリ乾電池計	155,275	8,250	90%	88%	1,272,496	65,020	101%	96%
単三	94,853	4,164	87%	85%	809,584	35,246	102%	97%
単四	30,321	1,378	96%	90%	261,162	12,017	98%	93%
その他	30,101	2,708	95%	94%	201,750	17,757	101%	97%
酸化銀電池	86,051	926	99%	93%	922,548	9,931	102%	98%
リチウム電池	100,896	4,165	100%	88%	1,028,737	44,161	102%	89%
その他の乾電池	6,330	273	83%	87%	60,585	2,619	82%	81%
二次電池計	137,149	45,782	95%	98%	1,477,095	486,678	98%	104%
鉛電池計	3,359	11,269	88%	84%	35,439	117,261	95%	94%
自動車用	2,200	6,664	85%	74%	21,861	65,585	99%	91%
二輪用	297	606	74%	75%	3,889	7,900	92%	97%
小形シール	647	752	102%	100%	7,412	8,710	85%	94%
その他	215	3,247	101%	111%	2,277	35,066	96%	99%
アルカリ電池計	59,641	7,506	72%	76%	731,578	89,542	76%	78%
完全密閉式	29,429	3,364	83%	77%	370,643	41,253	82%	79%
ニッケル水素	30,200	3,940	65%	74%	360,628	45,499	71%	78%
その他のアルカリ電池	12	202	29%	76%	307	2,790	85%	70%
リチウムイオン電池	74,149	27,007	127%	115%	710,078	279,875	138%	123%
器具計	986	1,108	122%	81%	9,717	13,638	103%	89%
携帯電灯	573	412	147%	118%	5,436	4,396	107%	87%
電池器具	413	696	99%	69%	4,281	9,242	97%	90%

11月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年11月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	304,854	31,055	93%	92%	3,041,072	327,235	97%	102%
一次電池計	176,710	3,034	89%	73%	1,780,127	33,782	98%	87%
マンガン	50,130	404	77%	73%	500,822	4,159	86%	75%
アルカリ	31,750	568	144%	106%	255,976	4,879	140%	125%
酸化銀	37,289	401	86%	75%	363,303	4,299	92%	90%
リチウム	54,093	1,603	83%	68%	634,525	19,811	100%	84%
空気亜鉛	2,360	40	73%	73%	18,925	331	74%	64%
その他の一次	1,089	19	157%	15%	6,577	303	158%	85%
二次電池計	128,144	28,020	99%	95%	1,260,945	293,453	95%	104%
鉛蓄電池	359	518	109%	76%	3,396	6,800	81%	89%
ニカド	24,309	2,047	86%	73%	308,992	27,036	81%	77%
ニッケル鉄	0	1	-	-	36	15	69%	85%
ニッケル水素	18,550	1,911	51%	53%	251,208	25,889	65%	68%
リチウムイオン	69,116	20,630	137%	102%	560,881	199,762	130%	111%
その他の二次	15,810	2,913	110%	127%	136,432	33,951	110%	153%
全電池合計(輸 入)	60,148	5,033	88%	116%	619,296	52,662	121%	123%
一次電池計	54,384	1,600	85%	104%	572,635	17,424	121%	111%
マンガン	11,987	178	69%	88%	130,279	1,650	122%	113%
アルカリ	36,231	647	83%	82%	388,663	7,113	119%	107%
酸化銀	229	5	400%	286%	1,504	35	54%	59%
リチウム	1,439	152	81%	193%	15,626	2,093	89%	148%
空気亜鉛	517	14	116%	100%	5,623	162	150%	113%
その他の一次	3,981	605	510%	134%	30,939	6,372	214%	107%
二次電池計	5,764	3,432	130%	122%	46,661	35,238	124%	129%
鉛蓄電池	580	1,368	113%	102%	6,214	15,658	118%	114%
ニカド	2,420	453	153%	131%	16,996	3,917	120%	92%
ニッケル鉄	12	25	8%	316%	129	262	82%	1666%
その他の二次(部分品を含む)	2,753	1,586	125%	142%	23,323	15,401	130%	166%